



アスモ少額短期保険株式会社

ディスクロージャー 2015

CONTENTS

・PART 1 業績報告

- 1-1 ご挨拶
- 1-2 事業の概要
- 1-3 収支の状況
- 1-4 財務の健全性

・PART 2 商品とサービス

- 2-1 商品のご紹介
- 2-2 販売体制
- 2-3 お客様サポート
- 2-4 情報開示

・PART 3 各種取り組み

- 3-1 リスク管理
- 3-2 個人情報保護
- 3-3 コンプライアンス
- 3-4 教育研修体制
- 3-5 指定紛争解決機関について

・PART 4 会社概要

- 4-1 会社プロフィール
- 4-2 沿革
- 4-3 組織体制と経営陣
- 4-4 グループのご紹介

・PART 5 各種データ

本資料は、保険業法第 272 条の 17 において準用する保険業法第 111 条第 3 項、第 4 項および保険業法施行規則第 211 条の 37 第 1 項に基づき作成したディスクロージャー資料(業務及び財産の状況に関する説明書類)です。

PART 1

事業報告

- 1-1 ご挨拶
- 1-2 事業の概要
- 1-3 収支の状況
- 1-4 財務の健全性

1-1 ご挨拶

平素よりアスモ少額短期保険をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

2014年4月、当社はアスモ少額短期保険株式会社に改称し、本社を東京都渋谷区代々木に移し、社名も新たに第二創世記として歩み始めました。

「本当に必要な保障が少しかればいい」

そんな多くのお客様からの声にお応えするために。

私たちには大きな自社ビルも、役員用の社有車也没有せん。派手なテレビCMもしていませんし、保険をたくさん売ったセールスマンを海外旅行に招待することもしていません。

その代わりに、私たちは、お財布にやさしい保険を皆様に提供することができます。

シンプルで必要最小限の保障を店頭で、通信販売で、インターネットで簡単にご加入いただくことができます。

保険会社の安定性を表す指標の一つであるソルベンシー・マージン比率も4,427.6%（2015年3月末時点）となり、更に安心して、皆様にお選びいただけるようになりました。

社員の数は多くはありませんが、生損保会社等で豊かな経験を積んできたプロフェッショナルチームにより、ハートフルなサービスをお客様にご提供すると同時に、安定的な経営がされています。

2014年度の業務及び財産の状況に関し、本ディスクロージャー資料にまとめましたので、ご高欄ください。

アスモ少額短期保険株式会社は「小さくてもキラリと光る保険会社」として、引き続き、お客様に確かな安心を提供して参りたいと思います。

今後とも、あたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

アスモ少額短期保険株式会社

代表取締役社長 飛田 浩志

1-2 事業の概要

2014年度の概観

2014年度は当社の社名変更および本社移転から始まりました。2013年12月に当社は給食事業や介護事業など主にシニア向けの事業を展開している株式会社アスモ(東証2部上場)の子会社となりました。それに伴い、社名をアスモ少額短期保険株式会社に改称し、本社を渋谷区代々木に移転致しました。社名を改称したことに伴い、当社のパンフレットやホームページを一新し、新たなCI戦略により、事業を展開してまいりました。

社名を変更したことにより、当社の認知度が下がり、新たな社名の浸透を図って参りましたが、新規契約が伸びなかったこと、フロントガラス破損補償保険の更新停止により、保有契約および収入保険料は前年度より減少をいたしました。

しかしながら、2011年度より開始致しました事業の見直し、再構築による収支改善施策により、2014年度も収益を上げることができ、保険会社の健全性を表す指標のひとつであるソルベンシー・マージン比率は昨年同時期の3,604.4%から**4,427.6%**(2015年3月末時点)と前年度から823.2%増加し、お客様に更に安心して当社の保険にご加入、ご継続していただけるようになっております。

尚、収支のバランスが著しく損なわれておりましたフロントガラス破損補償保険は2013年10月より既存契約を順次更新停止とさせていただき、2014年9月には当保険の保有契約はゼロとなりました。保険制度の健全運営のためとはいえ、当保険にご契約いただいておりますお客様、取扱代理店の皆様、関係各位には、多大なご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

保有契約件数および収入保険料

フロントガラス破損補償保険の更新停止に伴う契約数の減少もあり、2015年3月末の保有契約数は8,135件となり、収入保険料は342,827千円となりました。

代理店数／募集人数

2015年3月末における当社の代理店数は134店(前年同時期136店)、募集人数は1,739名(前年同時期1,797名)となりました。募集人数が減少しておりますが、これは主に委託型募集人の適正化に伴う廃業による減少であり、営業体制への影響はありません。

1-3 収支の状況

経常収益

2015年3月末における当社の経常収益は477,862千円と前年同時期(507,328千円)より29,466千円の減少となりました。

経常費用

2015年3月末における当社の経常費用は457,558千円となり、前年同時期(431,826千円)より25,732千円の増加となりました。これは生命保険商品の保険金等の支払が前年より24,489千円増加したことが要因です。

また、当期の純利益は17,196千円となり、2012年度に初の単年度黒字を達成して以来、3期連続して収益を上げることができています。

純資産

2015年3月末における当社の総資産は252,889千円となり、前年同時期(244,293千円)より8,596千円増加しました。純資産額も前年同時期(138,207千円)より17,197千円増加し155,404千円となりました。

また、現預金も前年同時期より33,931千円増加し、151,747千円となり、より一層の安定経営ができるようになっています。

今後の事業課題

2013年12月末に介護関連事業を中心に事業展開を行なっている株式会社アスモ(東証二部上場)の子会社となり、2014年4月に社名をアスモ少額短期保険株式会社と改称し、名実共にアスモグループの一員となりました。2015年7月には、保険業界初の有料老人ホーム入居者専用保険「転ばぬ先の杖」(高齢者施設入居者家財保険)の発売を予定しております。この新商品をテコに、今後、新たな事業展開を進めていく所存です。

引き続き、アスモグループ各社とのシナジー効果も活かす経営を行い、私たちの目標である「小さくてもキラリと光る保険会社」を目指し、その実現に邁進してまいります。

- ① 有料老人ホーム入居者専用保険「転ばぬ先の杖」による新規契約の獲得
- ② 高まる介護ニーズに備える介護保険商品の新規契約促進
- ③ 新規代理店との積極提携およびニューチャネルの開拓
- ④ 雇用環境の改善に伴う優良人材獲得のための中小企業向け役員・従業員保障プランの積極販売
- ⑤ 単身でペットを飼っている方向けの「ペットのお守り」による新規販売チャネルの開拓

1-4 財務の健全性

責任準備金

2015年3月末における当社の責任準備金は、30,248千円となっています。当社では、フロントガラス破損補償保険を除き、引受リスクの80%を再保険によりカバーしているため、責任準備金の積立額は相対的に少なくなっています。

ソルベンシー・マージン比率

2015年3月末時点における当社のソルベンシー・マージン比率は**4,427.6%**となりました。前年度の**3,604.4%**と比較しても更に大きな数字となり、より一層皆様に安心してご加入いただくことができるようになりました。

再保険によるリスクヘッジ

当社では、現在販売しております生命保険商品全商品におきまして、引受リスクの80%を再保険(他の保険会社に保険をかけること)により社外に出すことにより、当社の財務基盤に万一のことが生じても保険金の支払いに支障がおこりにくい仕組みとなっています。(既に販売を停止しているフロントガラス破損補償保険を除く)

資産運用

当社では、保険業法第272条の12、保険業法施行規則第211条の26から28の定めに従い、保険料として収受した金銭その他の資産の運用については、現預金のみとなっております。

PART 2

商品とサービス

- 2-1 商品のご紹介
- 2-2 販売体制
- 2-3 お客様サポート
- 2-4 情報開示

2-1 商品のご紹介

販売商品

現在、当社では「生命定期保険」「入院保障付生命定期保険」「無選択型生命定期保険」の3商品を販売しています。

生命定期保険

万一の死亡、重度障害の場合に保険金をお支払いする保険です。生命保険の基本ともいえるシンプルで応用範囲の広いプランです。「いきいきプラン」「あんしんライフ」「生きるんじゃ！」などの商品名で販売しています。

入院保障付生命定期保険

万一の死亡、重度障害の保障に加え、入院時の保障も組み込まれた保険です。死亡保障と入院保障をお手軽な料分でカバーできるプランです。「けんこうプラン」「あんしんメディカル」「Benefit Plan」などの商品名で販売しています。

無選択型生命定期保険

万一の死亡時に保険金をお支払いする保険で、事故により死亡されたときは3倍の保障があります。健康告知なしでご加入いただけるシニア向けのプランです。「しあわせプラン」「あんしんシニア」などの商品名で販売しています。

2-2 販売体制

対面代理店チャネル

お客様のニーズに沿った商品を提案し、販売していくチャネルです。個人で営業している代理店から使用人を数百人抱えている大規模代理店まで、様々な代理店により商品を提供しています。

通信販売代理店チャネル

通信販売により保険を販売するチャネルで、インターネットや郵便、コールセンターを通じて全国の皆様に当社の商品をお届けしています。いつでもどこでも保険に加入できる利便性が魅力です。

直扱いダイレクト・チャネル

インターネットで保険を検討し、契約をされる方が増えてきています。当社においても、ホームページから直接、資料請求や保険契約のお申込みをいただくお客様も増えていきます。

今後の取り組み

それぞれのチャネルに合わせたプロモーションを策定し、お客様への保険販売の機会を増やしていく予定です。3つの販売チャネルをもつことは、当社の最大の強みであり、今後もバランスのとれたチャネル開拓を進めていきます。

2-3 お客様サポート

基幹システムMtas

当社では基幹システムを自社開発しているため、実情に即した顧客管理、契約情報を管理しています。またセキュリティ等にも十分配慮し、お客様の情報をお守りしています。

お客様宛通知

保険料の振替ができなかった際にお送りする「保険料ご請求案内」、更新時にお届けする「契約更新のご案内」など、きめ細かい案内にてお客様に安心を提供しています。



The screenshot shows a web-based interface for managing customer and policy information. It includes fields for customer details (name, gender, birth date), policy details (policy code, premium amount, renewal date), and administrative information (agent, branch). The interface is in Japanese and includes various input fields, dropdown menus, and buttons for editing and saving data.

フリーコール

新規のお客様も既にご契約のお客様も、お気軽にお問い合わせをいただけるよう、フリーコールをご用意しています。

保険金支払体制

当社では、お客様が安心して保険金、給付金をご請求いただけるよう、社内の保険金支払部門の体制を整備すると共に、保険金、給付金のお支払状況についてお知らせし、速やかな保険金支払いができるよう業務運営に努めています。

お客様の声受付体制

当社にお寄せいただいたお客様の声は迅速、誠実に対応できる体制を整えています。また、頂いたお客様の声にもとづき再発防止のために社内教育や改善に努めています。

お客様の声区分	代表的な事例	件数
○保険金のお支払		
連絡・対応	保険金や給付金の請求手続きの遅延に関するもの	
お支払の可否	保険金や給付金が支払われないことに関するもの	
接客態度	電話対応における社員のマナーに関するもの	
その他	上記以外の保険金や給付金のお支払に関するもの	1
○契約の管理		
収納関係	保険料の収納に関するもの	
ご契約の解約手続き	ご契約の解約手続きに関するもの	
その他	上記以外のご契約の管理に関するもの	
○ご契約の手続き		
ご契約内容の説明	保険内容の説明に関するもの	1
ご契約の更新手続き	ご契約の更新手続きに関するもの	2
その他	上記以外のご契約の手続きに関するもの	
合計		4

2-4 情報開示

ウェブサイト

当社では、ウェブサイトにおいて、商品内容や会社概要、また各種取り組み内容等を開示しているほか、インターネットで申込手続きが完結するオンライン申込や、資料請求などもインターネットを通じて、カンタンにできるようにするなど、お客様の利便性の向上に努めています。

ディスクロージャー

当社では年一回、決算等の確定を踏まえてディスクロージャー資料を作成しています。当資料は当社ウェブサイトよりご自由に関覧、ダウンロードいただくことができます。

ニュースリリース

当社ではご契約者の皆さまをはじめとする全てのお客様に対し、当社の取り組みやお知らせについて「ニュースリリース」として情報発信しています。



PART 3

各種取り組み

- 3-1 リスク管理
- 3-2 個人情報保護
- 3-3 コンプライアンス
- 3-4 教育研修体制
- 3-5 指定紛争解決機関について

3-1 リスク管理

リスク管理体制

当社では、リスク管理体制の整備、強化を重点取り組み課題として位置付けています。適切なリスク管理をおこなうことで、業務の健全性および適切性を確保し、少額短期保険業者としての信用、信頼を高めていく所存です。

また、大災害発生等を想定した「コンティンジェンシープラン」も策定しています。

リスクの種類

- ・資産運用リスク
- ・保険引受リスク
- ・事務リスク
- ・システムリスク
- ・その他経営リスク

情報セキュリティ

情報セキュリティへの取り組み指針として、「セキュリティポリシー」を策定すると共に、「情報セキュリティ管理責任者」を配置して、適切な情報管理に努めています。

アスモ少額短期保険株式会社 セキュリティポリシー（抜粋）

1. 情報セキュリティ管理体制の構築
当社が保有する全ての情報資産の保護に努め、情報セキュリティに関する法令その他の規範を遵守することにより、社会からの信頼を常に得られるよう、高度な情報セキュリティ管理体制を構築していきます。
2. 「情報セキュリティ管理責任者」の配置
社内「セキュリティ管理者」を設置するとともに、リスク管理委員会を常設します。これにより情報セキュリティの状況を正確に把握し、必要な対策を迅速に実施できるよう積極的な活動を行います。
3. 情報セキュリティに関する内部規程の整備
情報セキュリティポリシーに基づいた内部規程を整備し、個人情報だけではなく、情報資産全般の取り扱いについて明確な方針を示すとともに、情報漏洩等に対しては、厳格な姿勢で臨むことを内外に周知徹底します。
4. 監査体制の整備・充実
情報セキュリティポリシー及び規程、ルール等への遵守状況に対する内部監査を実施できる体制を整備してまいります。監査を計画的に実施することにより、全職員はセキュリティポリシーを遵守していることを証明します。
5. 情報セキュリティ対策を徹底したシステムの実現
情報資産に対する不正な侵入、漏洩、改ざん、紛失、破壊、利用妨害などを防止するべく、徹底した対策の実施とシステムの構築を行ってまいります。高セキュリティエリアでの作業、DB アクセス権の制限など、データへのアクセスを徹底的にコントロールします。
6. 情報セキュリティリテラシーの向上
全職員及び派遣職員にセキュリティ教育と訓練を継続的に実施し、当社の情報資産に関わる全員が、情報セキュリティリテラシーを持って業務を遂行できるようにします。

3-2 個人情報保護

取り組み

当社では、個人情報保護を重要課題として位置付け、関連法規に基づき各種の社内規程を整備すると共に、社内の管理体制の強化に努めています。

プライバシーポリシー

当社では、お客様の個人情報の保護に万全を尽くすため、「プライバシーポリシー」を定めています。

センシティブ情報の取扱

センシティブ情報については、保険事業の適切な業務運営を確保する必要性から、業務遂行上必要な範囲内で、各種保険契約の引き受け、継続、維持管理、保険金等の支払い、保険商品の開発等の目的に限定して取得、利用いたします。

個人情報の外部提供

当社はお客様とのお取引および当社の業務運営を適切かつ円滑に履行するために次のような取り扱いをおこないます。

- ・再保険会社への情報提供
- ・業務委託先への情報提供

詳細はウェブサイト上のプライバシーポリシーをご参照ください。

センシティブ情報

保健医療等の機微情報を「センシティブ情報」といいます。センシティブ情報については、保険業法施行規則第53条の10により、利用目的が限定されています。

アスモ少額短期保険株式会社 プライバシーポリシー（抜粋）

当社は、お客様の氏名や住所、電話番号、メールアドレスなど、特定の個人を識別できる情報（個人情報）の重要性を認識し、個人情報の保護に関する法律（個人情報保護法）その他の関連法令等を遵守して、お客様の個人情報の保護を行なっております。

1. 個人情報の取得

当社は、業務上必要な範囲内かつ、適法で公正な手段により個人情報を取得します。

2. 個人情報の利用目的

当社では、次の業務を実施する目的に必要な範囲内で個人情報を利用します。

- ① 保険契約の申込みに係る引受の審査、引受、履行および管理
- ② 適正な保険金・給付金の支払い
- ③ 再保険契約の締結、再保険契約に基づく通知および再保険金の請求
- ④ お問い合わせやご依頼などへの対応
- ⑤ その他、上記に付随する業務ならびにお客様とのお取引および当社の業務運営を適切かつ円滑に履行するために行う業務

3. 個人データの安全管理

当社は、個人データを正確かつ最新なものにするため、適切な措置を講じます。また、個人データへの不正なアクセス等が行われることを防止するため、必要と考えられる対策を講じます。

4. 個人データの第三者への提供

当社は、次の場合を除き、第三者に個人データを提供することはありません。

- ① あらかじめ同意がある場合
- ② 利用目的を達成するために業務を委託する場合
- ③ 法令により必要とされる場合
- ④ 少額短期保険会社間等で共同利用する場合（支払時情報交換制度をご覧ください）

5. 個人情報の開示・訂正・利用停止等について

当社は、お客様からご自身の個人情報に関して利用目的の通知・開示・訂正・追加・削除・利用停止の依頼があった場合は、特別の理由がない限り対応致します。

3-3 コンプライアンス

取り組み

当社はコンプライアンスを最重要の経営課題として位置付け、法令遵守の体制づくり、保険募集から保険金のお支払いに至るまで、適正な業務遂行ができるよう、取り組みを続けています。

コンプライアンス体制

コンプライアンスを管理するため、独立した組織である「コンプライアンス統括部」を設けています。

遵守すべき主な法令等

- ・保険業法
- ・保険法
- ・個人情報保護法
- ・消費者契約法
- ・金融商品販売法
- ・会社法
- ・不正競争防止法
- ・犯罪収益移転防止法

遵守すべき法令等

当社は保険業法をはじめとした関連法規はもとより、社内規程や社内ルールも遵守するよう周知徹底を図っています。

反社会的勢力への対応

当社は反社会的勢力による被害を防止するため、「反社会的勢力に対する基本方針」「反社会的勢力への対応に関する規程」を制定しています。また、外部専門機関との連携、取引を含めた一切の関係遮断、有事における民事と刑事の法的対応、裏取引や資金提供の禁止を徹底しています。「反社会的勢力に対する基本方針」は当社ホームページにも掲載しております。

コンプライアンス規程 第1条(行動規範)

1. 社会的責任と公共的使命

当社は、少額短期保険事業の社会的責任と公共的使命を認識し、健全な業務運営を通じて国民経済への寄与と事業の一層の発展を目指すものとする。

2. 公正かつ公平な事業活動

当社は、常に公正な競争に努め、社会的に有用かつ良質な商品・サービスをすべてのお客様に公平に提供する。

3. 法令等諸規則の遵守

当社は、役員・社員一人一人が高い倫理観を持ち、法令・諸規則に反することなく誠実に事業活動を遂行する。

4. 社会とのコミュニケーション

当社は、良き企業市民として社会貢献活動や環境問題に積極的に取り組むとともに、企業情報の積極的かつ公正な開示に努め、広く社会とのコミュニケーションを図る。

5. 反社会的勢力に対する断固とした姿勢

当社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対しては、断固とした姿勢で臨むものとする。

3-4 教育研修体制

社内教育

当社では「トレーニング体系」を策定し、社員および募集人に対する教育研修を推進しています。

代理店教育

保険募集の第一線にいる代理店、募集人の教育は最重要課題のひとつです。当社では商品研修、販売研修はもとより、適正な募集活動のためコンプライアンス研修等も定期的を実施しています。

教育研修ツール

当社では代理店の質向上のため、さまざまな教育研修ツールを開発しています。販売スキル向上のための「販売マニュアル」事務スキル向上のための「事務マニュアル」などがあります。

勧誘方針

当社では、保険募集にあたり適正な販売活動を推進するため、「勧誘方針」を定めています。



3-5 指定紛争解決機関について

指定紛争解決機関について

当社は、指定少額短期保険業務紛争解決機関である一般社団法人 日本少額短期保険協会との間で、少額短期保険業務に関する苦情処理手続および紛争解決手続等の実施のための手続実施基本契約を締結しております。

指定少額短期保険業務紛争解決機関では、ご契約者をはじめ、一般消費者の皆様からの少額短期保険全般に関するご相談・ご照会への対応や苦情処理・紛争解決を行います。

一般社団法人 日本少額短期保険協会 少額短期ほけん相談室

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-12-8 八丁堀 SFビル 2 階

TEL 0120-82-1144(通話料無料)

FAX 03-3297-0755

[受付]

月曜日～金曜日(祝日・年末年始休業期間を除く)

9:00～12:00、13:00～17:00

ホームページアドレス <http://www.shougakutanki.jp/general/index.html>

PART 4

会社概要

- 4-1 会社プロフィール
- 4-2 沿革
- 4-3 組織体制と経営陣
- 4-4 グループのご紹介



4-1 会社プロフィール

会社名

アスモ少額短期保険株式会社
ASMO Small Amount & Short Term Insurance Company

会社所在地

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 3-28-6
いちご西参道ビル 5 階
TEL 03-6300-6240 / FAX 03-6300-6243

URL

<http://www.asmo-ssi.co.jp/>

設立

2007 年 3 月

役職員数

8 名

資本金

8,500 万円（資本準備金 7,500 万円）

事業内容

少額短期保険業
財務局登録 2008 年 3 月 17 日
関東財務局(少額短期保険)第 15 号

経営陣

代表取締役社長	飛田 浩志
取締役	岡田 秀樹
取締役	柿内 康宏
監査役	藤田 純一

株主

株式会社アスモ	99%（持株数:15,840 株）
長井 尊	1%（持株数:160 株）

(2015 年 3 月 31 日現在)

4-2 沿革

沿革

2014/6/1	「Benefit Plan」を発売しました。
2014/4/1	アスモ少額短期保険株式会社に社名変更しました。
2014/3/31	本社を渋谷区代々木に移転しました。
2013/12/27	当社株式を株式会社アスモが取得したことで、株式会社アスモの子会社となりました。
2013/5/7	(社)日本少額短期保険協会加盟の他の少額短期保険会社および、隣接他業態ともに保険契約に関する所定の情報の相互照会を開始しました。
2012/6/18	生きるための保険「生きるんじゃ！」を発売しました。
2011/10/31	資本金を 8,500 万円に、資本準備金を 7,500 万円に増資しました。
2010/12/20	資本金を 7,000 万円に、資本準備金を 6,000 万円に増資しました。
2010/10/4	本社を渋谷区恵比寿南に移転しました。
2010/1/1	スポーツ傷害保険「スポーツ応援団」を発売しました。
2009/8/24	フロントガラス破損補償保険「フロントガラス保険」を発売しました。
2009/7/27	セシール会員オリジナルプラン「Style」を発売しました。
2009/6/18	スポーツ支援活動を開始しました。
2009/3/17	マニフェストを発表しました。
2008/10/6	本社を品川区東五反田に移転しました。
2008/7/31	ティグレ会の共済契約を包括移転しました。
2008/7/10	ティグレ会の共済契約について包括移転の認可を受けました。
2008/6/30	日本スポーツリスク協会の共済契約を包括移転しました。
2008/4/15	日本スポーツリスク協会の共済契約について包括移転の認可を受けました。
2008/4/1	少額短期保険事業を開始しました。
2008/3/17	関東財務局より関東財務局長(少額短期保険)第15号の登録を受けました。
2008/3/17	ブロードマインド少額短期保険株式会社に社名変更しました。
2008/2/29	資本金を 5,500 万円に増資しました。
2007/3/12	ブロードマインド少額短期インシュアランス株式会社を設立しました。

4-3 組織体制と経営陣

組織体制

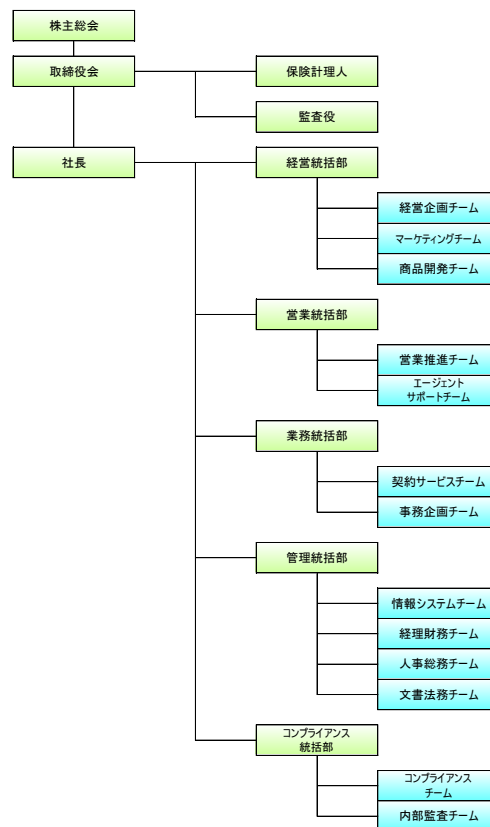
当社では実務執行部門として「経営統括部」「営業統括部」「業務統括部」「管理統括部」をおき、更に「コンプライアンス統括部」を設けています。各部門が相互に連携することで、円滑で健全な業務運営をおこなっています。

経営陣

取締役会、保険計理人、監査役がそれぞれの立場で会社経営、事業の状況を管理しています。

アスモ少額短期保険 組織図

2015年3月現在



4-4 グループ各社のご紹介

株式会社アスモ

(東京証券取引所市場 第二部上場 コード 2654)

関連子会社の管理・経営指導を行っています。

株式会社アスモトレーディング

安全・安心な食肉を世界中の食肉生産業者から直輸入しております。トレーサビリティシステムで、品質保持期限に厳格な対応をしています。

株式会社アスモフードサービス

高齢者福祉施設給食、病院給食、事業所給食、学校給食などさまざまな分野でのお食事を全国規模で提供しています。

株式会社アスモ介護サービス

介護福祉士や、訪問介護員(ホームヘルパー)などがご訪問させて頂き、ケアマネージャーの立てたケアプランに基づき介護を必要とされる方の日常生活のお手伝いをしています。

ASMO CATERING(H.K.)CO., LIMITED(香港)(外食事業)

香港を中心に10店舗以上の和食レストランを展開し、香港進出を考える企業様のトータルサポートもしています。

サーバントラスト信託株式会社

高齢者の財産等の管理及び有料老人ホーム入居一時金の保全等の信託事業を行っています。

PART 5

各種データ

財産及び損益の状況の推移

支店等及び代理店の状況

直近の3事業年度における主要な業務の状況を示す指標

直近の2事業年度における業務の状況

直近の2事業年度における財産の状況

財産及び損益の状況の推移

(単位:千円)

区分	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
収入保険料	376,365	360,105	342,827
(生命定期保険)	26,139	27,546	28,019
(入院保障付生命定期保険)	321,571	307,662	292,391
(無選択型生命定期保険)	26,765	23,916	22,415
(フロントガラス破損補償保険)	1,892	983	-
(スポーツ傷害保険)	-2	-2	0
正味収入保険料	228,661	239,946	212,339
(生命定期保険)	18,565	18,330	17,354
(入院保障付生命定期保険)	193,312	204,729	181,100
(無選択型生命定期保険)	14,838	15,914	13,883
(フロントガラス破損補償保険)	1,855	975	-
(スポーツ傷害保険)	89	-2	0
利息及び配当金収入	12	24	30
経常利益(又は経常損失)	27,586	75,501	20,304
当期純利益(又は当期純損失)	27,296	69,202	17,196
総資産	195,782	244,293	252,889
一株あたりの当期純利益損失(又は当期純損失)(円)	1,706	4,325	1,074

支店等及び代理店の状況

(単位:店)

区分	前期末	当期末	当期増減
支店	-	-	-
営業所	-	-	-
計	-	-	-
代理店	136	134	△2
計	136	134	△2

直近の3事業年度における主要な業務の状況を示す指標

(単位:千円)

区分	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
経常収益	549,524	507,328	477,862
経常利益又は損失(△)	27,586	75,501	20,304
当期純利益又は損失(△)	27,296	69,202	17,196
資本金の額	85,000	85,000	85,000
(発行済株式の総数)	(16,000 株)	(16,000 株)	(16,000 株)
純資産額	69,005	138,207	155,404
保険業法上の純資産額	76,761	145,365	161,945
総資産額	195,782	244,293	252,889
保険契約準備金残高	60,944	38,127	33,456
(うち支払備金)	(8,472)	(3,134)	(3,207)
(うち責任準備金)	(52,471)	(34,993)	(30,248)
有価証券残高	-	-	-
ソルベンシー・マージン比率	1,576.7%	3,604.4%	4,427.6%
配当性向	-	-	-
従業員数(派遣、出向を含む。)	6 人	6 人	7 人
正味収入保険料の額	228,661	239,946	212,339

直近の2事業年度における業務の状況

① 主要な業務の状況を示す指標等

(単位:千円)

	保険種目	平成 25 年度	平成 26 年度
契約者配当金の額	該当ありません。		
正味収入保険料(注 1)	死亡保険	238,971	212,339
	その他の損害保険	974	0
	合計	239,946	212,339
元受正味保険料	死亡保険	359,121	342,827
	その他の損害保険	983	-
	合計	360,105	342,827
支払再保険料	死亡保険	154,590	148,432
	その他の損害保険	-	-
	合計	154,590	148,432
保険引受利益(注 2)	死亡保険	78,417	22,967
	その他の損害保険	214	-
	合計	78,631	22,967
正味支払保険金(注 3)	死亡保険	19,250	28,078
	その他の損害保険	998	450
	合計	20,248	28,529
元受正味保険金	死亡保険	109,192	140,394
	その他の損害保険	998	450
	合計	110,190	140,845
回収再保険金	死亡保険	89,942	112,315
	その他の損害保険	-	-
	合計	89,942	112,315

注 1 正味収入保険料は、元受正味保険料から解約返戻金とその他返戻金と再保険料と再保険返戻金とその他再保険収入を差し引いた額

注 2 保険引受利益は、保険料等収入から保険金等支払金と責任準備金等繰入額と営業費及び一般管理費を差し引いた額

注 3 正味支払保険金は、元受正味保険金から回収再保険金を差し引いた額

② 保険契約に関する指標等

(単位:%)

	保険種目	平成 25 年度	平成 26 年度
正味損害率(注 1)	死亡保険	8.1	13.2
	その他の損害保険	102.4	-
	合計	8.4	13.4
正味事業費率(注 2)	死亡保険	69.6	79.2
	その他の損害保険	0	-
	合計	69.6	79.2
合計	死亡保険	77.7	92.4
	その他の損害保険	102.4	-
	合計	78.0	92.6
元受損害率(注 3)	死亡保険	30.4	41.0
	その他の損害保険	101.5	0
	合計	30.6	41.1
元受事業費率(注 4)	死亡保険	46.4	49.1
	その他の損害保険	0	-
	合計	46.4	49.1
【合計】	死亡保険	76.8	90.1
	その他の損害保険	101.5	0
	合計	77.0	90.2

注 1 正味損害率は、正味支払保険金を正味収入保険料で除した値

注 2 正味事業費率は、正味事業費(事業費から再保険手数料を差し引いた額)を正味収入保険料で除した値

注 3 元受損害率は、元受保険金を収入保険料で除した額

注 4 元受事業費率は、事業費を収入正味保険料で除した額

		平成 25 年度	平成 26 年度
出再再保険会社数		4 社	4 社
上位 5 社に対する支払再保険料の割合		100.0%	100.0%
格付けごとの再保険料の割合	A-以上	100.0%	100.0%
	BBB 以上	0.0%	0.0%
未収再保険金額		該当ありません。	

(格付け機関:S&P 社 2015 年 3 月 31 日現在による)

③ 経理に関する指標等

(単位:千円)

	保険種目	平成 25 年度	平成 26 年度
支払備金の額	死亡保険	1,602	3,055
	その他の損害保険	1,532	152
	合計	3,134	3,207
責任準備金の額	死亡保険	34,690	29,374
	その他の損害保険	303	874
	合計	34,993	30,248

(単位:千円)

	平成 25 年度	平成 26 年度
利益準備金	-	-
任意積立金	-	-
損害率の上昇に対する経常利益または経営損失の額の変動 (損害率 1%上昇を仮定(注))	2,307	2,123

注 当期発生損害率が1%上昇していたときの正味支払保険金の増加額を記載

(単位:千円)

	平成 25 年度	利回り	平成 26 年度	利回り
利息配当金収入				
現預金	24	0.01%	30	0.01%
元本補てんの契約のある金銭信託	-	-	-	-
有価証券	-	-	-	-
小計	24	0.01%	30	0.01%
その他	-	-	-	-
【合計】	24	-	30	-

④ 資産運用に関する指標等

(単位:千円)

	平成 25 年度	構成比	平成 26 年度	構成比
資産残高				
現預金	117,816	48.2%	151,747	60.0%
元本補てんの契約のある金銭信託	-	-	-	-
有価証券	-	-	-	-
運用資産計	117,816	48.2%	151,747	60.0%
総資産	244,293	100%	252,889	100%

⑤ 責任準備金の残高

(単位:千円)

区分	普通責任準備金	異常危険準備金	契約者配当準備金等	合計
死亡保険	22,833	6,541	-	29,374
その他損害保険	874		-	874
合計	23,707	6,541	-	30,248

直近2事業年度における財産の状況

① 平成26年度(平成27年3月31日現在)貸借対照表

(単位:千円)

区分	平成25年度	平成26年度	区分	平成25年度	平成26年度
(資産の部)			(負債の部)		
現金及び預貯金	117,816	151,747	保険契約準備金	38,127	33,456
現金	-	-	支払備金	3,134	3,207
預貯金	117,816	151,747	責任準備金	34,993	30,248
有形固定資産	2,245	1,711	代理店借	5,756	5,528
その他の有形固定資産	2,245	1,711	再保険借	50,756	48,648
無形固定資産	2,530	1,082	その他負債	10,017	7,743
ソフトウェア	2,530	1,082	未払法人税等	702	3,251
再保険貸	59,671	45,225	未払金	8,127	3,555
その他資産	40,021	31,121	未払費用	195	-
未収金	35,483	26,228	預り金	991	936
前払費用	303	732	その他の引当金	1,427	2,107
その他の資産	4,243	4,160	負債の部 合計	106,085	97,484
供託金	22,000	22,000	(純資産の部)		
			資本金	85,000	85,000
			資本剰余金	75,000	75,000
			資本準備金	75,000	75,000
			利益剰余金	△21,792	△4,595
			繰延利益剰余金	△21,792	△4,595
			株主資本合計	138,207	155,404
			純資産の部 合計	138,207	155,404
資産の部合計	244,293	252,889	負債及び純資産の部合計	244,293	252,889

② 平成26年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで) 損益計算書

(単位:千円)

区分	平成25年度	平成26年度
経常収益	507,328	477,862
保険料等収入	484,487	473,087
保険料	360,105	342,827
再保険回収	124,381	130,260
回収再保険金	89,942	112,315
再保険返戻金	0	0
その他再保険収入	34,439	17,944
責任準備金等戻入額	22,816	4,744
支払備金戻入額	5,338	-
責任準備金戻入額	17,478	4,744
資産運用収益	24	30
利息及び配当金等収入	24	30
経常費用	431,826	457,558
保険金等支払金	264,789	289,278
保険金	60,868	102,901
給付金	49,322	37,943
解約返戻金等	8	0
再保険料	154,590	148,432
責任準備金等繰入額	-	73
支払備金繰入額	-	73
責任準備金繰入額	-	-
事業費	167,036	168,204
営業費及び一般管理費	163,906	165,543
税金	505	680
減価償却費	2,624	1,981
その他経常費用	-	2
経常利益(又は経常損失)	75,501	20,304
特別損失	5,781	-
税引前当期純利益(又は税引前当期純損失)	69,719	20,304
法人税及び住民税	517	3,107
法人税等合計	517	3,107
当期純利益(又は当期純損失)	69,202	17,196

③ 平成26年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで) キャッシュフロー計算書

(単位:千円)

区分	平成25年度	平成26年度
I 営業活動によるキャッシュフロー		
税金等調整前当期純利益	69,719	20,304
減価償却費	2,624	1,981
賞与引当金増減額	245	679
保険契約者準備金増減額	△22,816	△4,671
受取利息及び受取配当金(P/L 営業外収益(-))	△24	△30
棚卸資産の増減	-	-
未収入金の増減	1,629	
再保険貸の増減	△20,367	14,445
再保険借の増減	△1,530	△2,107
代理店借の増減	4	△227
その他営業活動に関わる資産の増減	△535	9,367
その他営業活動に関わる負債の増減	1,347	△4,823
供託金の増減	-	-
その他営業活動によるキャッシュフロー	-	-
(小計)	30,295	34,920
利息及び配当金等の受取額	19	24
法人税等の支払額	△664	△1,011
営業活動によるキャッシュフロー	29,650	33,931
II 投資活動によるキャッシュフロー		
有形固定資産の取得による支出	-	-
無形固定資産の取得による支出	-	-
その他の増減額	△3,806	-
投資活動によるキャッシュフロー	△3,806	-
III 財務活動によるキャッシュフロー		
株式の発行による収入	-	-
財務活動によるキャッシュフロー	-	-
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
V 現金及び現金同等物の増加額	25,843	33,931
VI 現金及び現金同等物期首残高	91,973	117,816
VII 現金及び現金同等物期末残高	117,816	151,747

(注) 現金及び現金同等物の範囲は、現金及び預貯金からなっております。

④ 平成 26 年度(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)株主資本等変動計算書

(単位:千円)

区分	平成 25 年度	平成 26 年度
株主資本		
資本金		
前期末残高	85,000	85,000
当期変動額	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	85,000	85,000
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	75,000	75,000
当期変動額	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	75,000	75,000
利益剰余金		
その他剰余金		
繰越利益剰余金		
前期末残高	△90,994	△21,792
当期変動額	69,202	17,196
当期変動額合計	69,202	17,196
当期末残高	△21,792	△4,595
株主資本合計		
前期末残高	69,005	138,207
当期変動額	69,202	17,196
当期変動額合計	69,202	17,196
当期末残高	138,207	155,404
純資産合計		
前期末残高	69,005	138,207
当期変動額	69,202	17,196
当期変動額合計	69,202	17,196
当期末残高	138,207	155,404

⑤ 保険金等の支払能力の充実の状況

(単位:千円、%)

	前期金額	当期金額
(1)ソルベンシー・マージン総額	145,365	161,945
① 純資産の部の合計額(繰延資産等控除後の額)	138,207	155,404
② 価格変動準備金	-	-
③ 異常危険準備金	7,157	6,541
④ 一般貸倒引当金	-	-
⑤ その他有価証券評価差額(税効果控除前)(99%又は100%)	-	-
⑥ 土地の含み損益(85%又は100%)	-	-
⑦ 契約者配当準備金の一部(除、翌期配当所要額)	-	-
⑧ 将来利益	-	-
⑨ 税効果相当額	-	-
⑩ 負債性資本調達手段等	-	-
告示(第14号)第2条第3項第5号イに掲げるもの(⑩(a))	-	-
告示(第14号)第2条第3項第5号イに掲げるもの(⑩(b))	-	-
⑪ 控除項目(-)	-	-
(2) リスクの合計額 $\sqrt{R1^2+R2^2}+R3+R4$	8,065	7,315
保険リスク相当額	7,484	6,541
R1 一般保険リスク相当額	7,484	6,541
R4 巨大災害リスク相当額	-	-
R2 資産運用リスク相当額	2,114	2,604
価格変動等リスク相当額	-	-
信用リスク相当額	1,178	1,517
子会社等リスク相当額	-	-
再保険リスク相当額	340	635
再保険回収リスク相当額	596	452
R3 経営管理リスク相当額	287	274
ソルベンシー・マージン比率 (1)/{(1/2)×(2)}	3,604.4	4,427.6

⑥ 有価証券または金銭の信託に関する取得価額または契約価額、時価および評価損益

有価証券 該当ありません。

金銭信託 該当ありません。

個別注記表

1. 重要な会計方針に関する事項

(1) 固定資産の減価償却の方法

- 有形固定資産： 定率法により計算しています。
耐用年数につきましては、社内における利用可能期間(5年)で償却しています。
- 無形固定資産： 定額法により計算しています。
耐用年数につきましては、自社利用のソフトウェアは社内における利用可能期間(5年)で償却しています。

(2) 引当金の計上金額

- 賞与引当金： 従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上しています。

(3) 消費税及び地方消費税の会計処理

消費税の免税事業者であり、消費税は発生していません。尚、計上時の消費税等の会計処理は税込方式により計上しています。

2. 重要な会計方針および表示の変更に関する事項

表示項目を保険業法およびその関係法令に準じた内容としています。

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類および総数

発行済株式の種類	期首株式数	当期増加株式数	当期減少株式数	当期末株式数
普通株式	16,000	-	-	16,000

4. その他の注記



ディスクロージャー2015

2015年7月発行

アスモ少額短期保険株式会社

〒151-0053

東京都渋谷区代々木3-28-6 いちご西参道ビル5階

TEL 0120-53-2610 / FAX 03-6300-6243

<http://www.asmo-ssi.co.jp>